

2015年11月29日(日)朝10:10～  
11月第5回共同主日礼拝式説教

降誕節前4、待降節第1、映写会等  
日本アライアンス庄原基督教会

# 説教題：**わが霊は、わが救い主なる神を 喜びたたえます**

聖書：ルカ 1章39～56節

＜口語訳＞

新約聖書83～84頁

ルカ 1章39～56節

＜新共同訳＞

新約聖書100～101頁

ルカ 1章39～56節

＜新改訳第3版＞

新約聖書107頁

ルカ 1章39～56節＜塚本訳＞

新約聖書167～169頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き  
によって主の弟子たちは、主の名による  
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、  
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

◇ルカ1章は、神の御子主イエス様の誕生が、「ルカ2章の救い主の誕生」に向けて、「神の語り」が、第1幕(1:5～23)「ヨハネ誕生予告」、第2幕(1:26～38)「救い主誕生予告」、第3幕(1:39～56)「ヨハネの母となるエリサベツと救い主の母となるマリヤの対話」が、ルカによって、記録されています。

◇ルカ1章39～56節は、39～45節が、エリサベツがマリヤに祝福のことばを贈り、46～56節は、マリヤの讃歌(ラテン語；マグニフィカート *magnificat* ← *magnificō*) が記録はされています。

⇒「マグニフィカート *magnificat* ← *magnificō*」は、「高く評価する、重んずる」が第1義で、第2義が、「賞讃する、讃美する」の意味があります。「わが霊」が、「ほめたたえる *マグニフィカート magnificat* ← *magnificō*」のです。

⇒「マリヤの讃歌」は、「エリサベツの祝福のことば」(信仰告白)があつてはじめて生まれた「信仰告白」なのです。

⇔ハンナはじめ、旧約のメシヤ讃歌なのです。

本論；

◇本日、ルカ1章39～56節から主の使信に  
思い・心をとめます。

◆ルカ1章41～45節；エリサベツは、神が  
マリヤになさったことを、聖霊によって喜び、  
讚美・祝福しました。

◇39～45節；塚本訳◆マリヤのエリサベツ  
訪問

「39 その後間もなくマリヤは立って、大急ぎで  
ユダの山地のある町に行き、

40 ザカリヤの家に入ってエリサベツに挨拶  
した。

41 エリザベツがマリヤの挨拶を聞いた時、  
児が胎内で躍った。エリサベツは聖霊に  
満たされ、

42 声高らかにさげんだ、『あなたは女の中で、  
(一番)祝福された方、あなたの胎内のお子  
さまも(だれより)祝福されたお方です。

43 主の母上がわたしの所に来てくださると  
は、まあどうしたのでしょうか。

44 そら、あなたの挨拶の声がわたしの耳に  
入ると、児が胎内で喜んで躍りました。

**45 主の仰せられたことはきっと成就すると信じたこの人は、なんと仕合わせでしょう。』**と、ルカ語っています。

◇ **39～40節** は、マリヤのエリサベツ訪問の経緯が記されています。

⇒山里(山地)の町は、エルサレムの西8kmの所で、12歳くらいの少女マリヤが、ナザレから訪ねて来るには、どれだけの距離だったかを想像すると、厳しい旅だったことが分りますと、YS師は、語っておられます。

◇ **42～45節** ;「**エリサベツ**」は、「**聖霊に満たされ**」、「**祝福された方、あなたの胎内のお子さまも(だれより)祝福されたお方です**」、「**あなたの挨拶の音がわたしの耳に入ると**」、「**児が胎内で喜んで躍りました**」、「**主の仰せられたことはきっと成就すると信じたこの人は、なんと仕合わせでしょう**」と、ルカは記録しています。

⇒「**祝福された方、あなたの胎内のお子さまも(だれより)祝福されたお方です**」は、**最高の信仰告白**と、YS師は、語っています。

⇔「**神の聖霊**」が、**信仰告白**させています。

⇒「あなたの挨拶の聲がわたしの耳に入ると」、  
「児が胎内で喜んで躍りました」は、ヨハネの  
母となるエリサベツが、神の御子主イエス様  
の母となるマリヤへ贈った「最高の賛辞で  
あり、祝福のことば」です。

⇒天使による特別なみことばを聴いても、信じな  
かったザカリヤとの違いが鮮明です。

◆ルカ1章46～56節；マリヤは、エリサベツの  
祝福のことばを聴き、神を讚美しました。

◇46～45節；塚本訳◆マリヤの讚美の歌

「46 マリヤが(神を讚美して)言った。――

『わたしの心は主を』あがめ、

47 わたしの霊は、『救い主なる神を喜び  
たたえる、』

48 この『卑しい召使にまで目をかけて  
くださった』からです。きっと今からのち  
代々の人々は、『わたしを仕合わせ者と  
言いましょう。』

49 力の強いお方がわたしに大きなことを  
してくださったのです。『そのお方の名は  
聖で、』

50 『その憐れみは千代よろず代とかぎりなく、

そのお方を恐れる者にのぞみましょう。』

51 『御腕にて』逞しきことを行い、心の思いの『高ぶる者を』『おい散らし、』

52 『権力者を』位から『引き下ろし、』『低い者を高うし、』

53 『飢えた者を宝で満たし、』『富める者を』『空手で追いかえさせましょう。』

54 永遠に『その憐れみを忘れず、』『その僕イスラエルの民を助けてくださるでしょう、』

55 『われらの先祖たち、すなわちアブラム』とその『子孫に』仰せられた『とおりに。』

◇56～66節；塚本訳◆ヨハネの誕生

56 マリヤは三か月ほどエリサベツと一しょにいて、家に帰った」と、ルカ語っています。

◇46～49節a；マリヤの讃歌の前半で、「神をほめたたえる」で、マリヤ自身の信仰告白。

⇒このマリヤ「讃歌マグニフィカートmagnificat ←magnificō」は、「わたしの心は、主をあがめ」、「わたしの霊、救い主なる神を喜びたたえる」が、根幹の信仰告白です。

⇒この告白の典型が、**ネヘミヤ記8章10節**、「**主を喜ぶことはあなたがたの力(の源)です**」と、**YS師**は、**解き明かしておられます**。

⇒「**神を喜ぶ**」ことが、「**力(の源)で**」、**神からの最高の恵みの賜物・贈り物**です。

◇**49節～55節**；**マリヤの讃歌マグニフィカート magnificat ← magnificō**は、**マリヤだけでなく、すべての人々の讃歌**として告白されるもので、**マリヤ**は、「『**卑しい召使にまで目をかけてくださった**』から」、「**今からのち代々の人々は、**『**わたしを仕合わせ者と言いましょ**う。』」、「**力の強いお方がわたしに大きなことをしてください**」、「**そのお方の名は聖で**」、「**その憐れみは千代よろず代とかぎりなく、そのお方を恐れる者にのぞみましょ**う」と、「**神への讃歌マグニフィカート magnificat ← magnificō**」は、「**神を喜ぶすべての人々**」の**信仰告白**なのです。

⇒**YS師**は、**49～53節の讃歌**は、**詩篇 107篇 9節**や**118篇15節**の引用だと、**語っておられます**。

⇒「**神を喜ぶ**」は、**神のみことばを喜ぶ鍵**です。

## 結論；

◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。

◇ルカ1章は、神の御子主イエス様の誕生が、「ルカ2章の救い主の誕生」に向けて、「神の語り」が、第1幕(1:5～23)「ヨハネ誕生予告」、第2幕(1:26～38)「救い主誕生予告」、第3幕(1:39～56)「ヨハネの母となるエリサベツと救い主の母となるマリヤの対話」が、ルカによって、記録されています。

◇ルカ1章39～56節は、39～45節が、エリサベツがマリヤに祝福のことばを贈り、46～56節は、マリヤの讃歌(ラテン語；マグニフィカート *magnificat* ← *magnificō*)が記録はされています。

⇒「救い主なる神を喜びたたえる」ことが、マリヤを支え、神礼拝・信仰告白に生きる者の力の源です。

⇒「聖<sup>ἅγιος</sup>なる神は(49～50節)は、「力の強いお方がわたしに大きなことをしてくださった」、「そのお方の名は聖で」、「その憐れみは千代よらず代とかぎりなく、そのお方を恐れる者にのぞみましょう」は、「神を喜ぶ者の恵み」。



⇒ホセア書11章8～9節;「8 エフライムよ、どうして、あなたを捨てることができようか。イスラエルよ、どうしてあなたを渡すことができようか。どうしてあなたをアダマのように することができようか。どうしてあなたをゼボイムのように 扱うことができようか。わたしの心は、わたしのうちに変わり、わたしのあわれみは、ことごとくもえ起っている。」、「9 わたしはわたしの激しい怒りをあらわさない。わたしは再びエフライムを滅ぼさない。わたしは神であって、人ではなく、あなたのうちにいる**聖**なる者だからである。わたしは滅ぼすために臨むことをしない。」

⇒「『**卑しい召使にまで目をかけてくださった**』から」、「わたしの心は主をあがめ」、「わたしの**霊**」は、「**救い主なる神を喜びたたえる**」とのマリヤの**讃歌**マグニフィカート magnificat ← magnificō は、「**その憐れみは千代よろず代とかぎりなく、そのお方を恐れる者にのぞみましよう**」。